

園だより



令和4年10月1日

社会福祉法人新田保育園
園長 大西 陽子

『できるようになりたい』

3歳児ひよこ組の数人が園庭でままごとをしていた時のこと。その横で大縄跳びが始まりました。カップとシャベルを持ったまま見入る子どもたち。「ひよこ組さんもやってみる？」保育者が声をかけると、「だってあれはぞうぐみさんだもん。Aはまだひよこぐみだから」と言うのです。「よく見てごらん。あの帽子の色は何組だろう？」目線の先の帽子はきみどり色。そう、4歳児りす組です。目が輝いたと思ったら、すくっと立ち上がり靴を履き始めました。「Aもやる」順番を待つ列に並びに行くと、それに続いてBもCも駆けて行きました。自分の番が来てジャンプしてみても、思うようには跳べません。保育者が「いいよ！」と声をかけても納得のいかない表情です。ままごとに戻ってくるかと思っていたら、また列に並びました。3度目で3回跳んで戻ってきたA。「跳べたね！」と言う保育者にエヘへと笑いますが、すぐにキリッとした口調で「またあしたやる」と言い、ままごとに戻りました。

なんでもできるよ！という時期から、自分と他者を比べ『自分には難しいかもしれない』と考える時期に入る幼児クラスの子どもたち。挑戦せず諦めることも少なくありません。けれどもその奥には『本当はできるようになりたい』という気持ちがあるのです。できない自分との葛藤は辛いのです。できれば避けたい。だからそれに負けないくらいの『できるようになりたい』という気持ちを大きくすることが、それを越える力になるのです。まずはどんな自分になりたいのか明確なビジョンを持つこと。それは人によって異なるものです。1回を目指す人もいれば、100回を目標にする人もいます。諦めや謙遜から口にする目標が小さい場合もあります。本当はどうなりたいのかを見極め認知するところは大人の介入が必要な場合もありますが、この時に大人のビジョンを押し付けないよう注意が必要です。そしてそれに向かう過程をみんなで共有し認め合うこと。思い描く姿でない自分に腹が立ち、悔しくて、諦めてしまいそうになっても、そこで奮闘している自分のことを友だちや保育者や家族が認めてくれたなら、また前を向いて進むことができるからです。

Aは何回跳ぶことが理想の姿だったのかな。それは、やってみるうちに変化していくこともあります。できるようになりたいという気持ちを持ち、泣いたり怒ったりしながら越えようと立ち向かっている姿を、私たちは何より大切にしたいと思うのです。運動会は、その過程の一つ。結果は必ずとついてきます。

(斉藤 千鶴子)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
10月				健康体育(3・4・5歳児)		荒馬秋まつり				スポーツの日	りす組(4歳児)個人面談			幼児(3・4・5歳児)遠足			避難訓練		健診(0・2歳児)	土手写真の日	誕生会・写真の日				ことり組(2歳児)個人面談			幼児向け就学前懇談会(配信)			